

2021 ~ 2022 年度国際ロータリーのテーマ

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

●会長 吉田 嘉昭
●幹事 松岡 泰光

No.1760 令和 04 年 01 月 26 日 第 26 回例会

※例会日 毎週水曜日 12:30~

※例会場 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内

※事務局 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内 TEL 354-4521 FAX 354-4053

※ URL <http://www.serc2720.org> ※ email serc@serc2720.org

■点鐘

■国歌斉唱「君が代」

■ロータリーソング「奉仕の理想」

■来訪者紹介 (会長 吉田嘉昭)

米山奨学生
ティティコンサコルウオング、
サクピシット君

■会長の時間 (会長 吉田嘉昭)



会長の時間

「新型コロナウイルス予防接種に関する国際ロータリーとロータリー財団の見解表明」について

2022年 1月26日

会長 吉田 嘉昭



1. 全世界における予防接種こそが、新型コロナウイルスの世界的流行および新たな変異株の出現を阻止するための方法です。
ロータリーは予防接種を支持し、会員を含め、現時点で新型コロナウイルスの接種を受けることができるすべての人に対して予防接種を強く奨励しています。新型コロナウイルスが拡大している地域では、地域社会が多大な困難に直面し、医療システムがひっ迫し、飛び交う意見により人びとが分断されています。世界が差し向かうには、ウイルスの拡大阻止が極めて重要となります。この度の見解表明は、ロータリーの立場をさらに固めることを目的としています。



4. ロータリーは全世界で、すべての人がワクチンに公平にアクセスできるように、積極的に取り組んでいます。これには、G20各国とのアドボカシーやGAVI/COVAXとの概念実証プログラムが含まれ、**ポリオ根絶活動における前線での経験を生かして**、ロータリアンが活動する複数の低・中所得国でのワクチン配布を促進しています。多くのクラブが既に新型コロナウイルスの感染予防に深く関わっていますが、私たちは集団的な取り組みを増やすための追加の戦略にも取り組んでいます。GAVI/COVAXとは、新型コロナウイルスの世界的アクセスと配布に力を注いでいる世界保健機関 (WHO) と UNICEF (国連児童基金) を含むパートナーシップです。



新型コロナウイルス予防接種に関する国際ロータリーとロータリー財団の見解表明

2021.12.16

シェカール・メーク国際ロータリー会長
ジョン F. シヤームロータリー財団管理委員長

予防接種をするという決断は、市民として、また人道的に必要不可欠であると私たちは考えています。ロータリーは、政治的または宗教的な団体ではなく、奉仕団体です。私たちの見解表明についても、奉仕団体としての立場から皆さまにお伝えしています。



2. 誤情報が「インフォデミック」となり、新型コロナウイルスとの闘いを妨げています。国際ロータリーとロータリー財団では、ロータリーの「四つのテスト」に従い、**科学に基づく情報を会員に提供することに力を注いでいます。**

3. ワン・ロータリー・センター (ロータリー世界本部) の国際ロータリー職員には、2021年10月10日時点で新型コロナウイルスの予防接種が義務づけられ、それが雇用の条件となっています。**R1職員の予防接種率は、99%を上回っています。**



5. 現時点でワクチンを接種できていない子どもは、大きな危険にさらされています。すべての子どもにワクチンを接種するまで、**予防接種を受けられない子どもを保護する最善の方法は、大人への予防接種です。**予防接種率の低い地域では、新型コロナウイルスによる子どもの入院数が急増しています。

6. ロータリーは、救命医療を提供している各地の医療従事者に敬意を表します。これらの英雄を各クラブが地元で称えることで、重要な仕事を続けることへの勇氣と意欲が与えられます。ロータリーは、**医療従事者に対するいかなる嫌がらせや攻撃も、断固として拒絶します。**



7. ロータリークラブとローターアクトクラブに対し、次のことが奨励されています：
○人ひとの模範となる。
○新型コロナウイルス感染症の治療、予防、ワクチン接種を支援する取り組みを増進させる。

8. ワクチンは、現代医学の最大の進歩の一つであることが証明されています。世界保健機関 (WHO) は、ワクチンによって毎年200万~300万人の子どもの命が救われていると推定しています。また、世界ポリオ根絶推進活動 (GPEI) は、これまでにポリオワクチンによって1,900万人以上の子どもが身体まひから救われたと推定しています。



ビル・ゲイツ氏 「来年(2022年)には、新型コロナウイルス感染症パンデミックは終焉するだろう」と推測

ゲイツ氏は2021年12月21日ツイッターを通じて「生活が正常に戻るという期待があったがオミクロン株が拡散した事から事態は最悪に向かっている。私も年末の集まりをほとんど取り消した」と伝えた。

「オミクロン株の感染力が非常に強いため、これまで見てきた中でも最悪の急増となるだろう。今後、我々はとてつもない感染者数の急増に直面する恐れがある」と懸念した。



ワクチンは安全で効果があり、天然痘、はしか、風疹、エボラ出血熱などワクチンで予防可能なほかの多くの疾患の根絶や抑制において役割を果たしています。そして今、**ワクチンを通じて新型コロナウイルスの世界的流行を終わらせる機会が訪れています。**

9. ポリオの根絶は、今もロータリーの最優先目標です。**ポリオとの闘いで学んだことを新型コロナウイルス対応にも生かすことができます。**



また、引き続き「マスク着用・多人数での集まりの自粛・予防接種とブースター接種」を勧告した。

その上で「オミクロン株が、一つの国で優位株になれば3ヶ月以内に収まる可能性がある」

「初期の数ヶ月は悪化するかもしれないが、我々が正しい措置を取れば、2022年には感染症が終焉するものと信じている」と付け加えた。

ビル&メリダ・ゲイツ財団による新型コロナ対策へのコミットは3億ドル(320億円)以上



■幹事報告 (幹事 松岡泰光)

■来客案内

1)

江河好洋 2021-2022 年度米山記念奨学会部門長より、2021 学年度修了式についてお知らせ。

終了式 (仮) 予定

熊本会場 令和 4 年 3 月 20 日 (日)

熊本ニュースカイホテル 16:00~

内容 16:00~ レセプション、

17:30~19:00 レセプション

※実行か中止かの判断は 2 月末日の感染状況を見て判断。

2)

大森克磨 ガバナー、堀川貴史 ガバナーエレクト、江河好洋 米山記念奨学会部門長より、2022 学年度米山奨学生世話クラブ募集の案内。

世話クラブ説明会、カウンセラー・奨学生オリエンテーションの日程 (案)

日時 2022年 4 月 24 日 (日)

熊本県民交流館パレア 10:00~

※今後の状況を見ながら計画を変更する場合があります。

3)

チャイルド・ファンド・ジャパンより、当クラブのチャイルド マークローセンスサンブ君の成長記録の送付。



■クラブより

1)
第7回定例理事会報告。

■今後の行事

| | | | | |
|------|----------------------|---------------------|----------|----------------------------------|
| 2022 | 01/29 (土) | 地区補助金セミナー | Zoomにて開催 | Zoomにて開催 |
| | 杉本整哉、櫻井一隆 (熊本東南 RAC) | | | |
| 2022 | 03/12 (土) ~ 13 (日) | 会長エレクト研修セミナー (PETS) | 熊本県 熊本市 | 熊本城ホール / ANA クラウン プラザホテル熊本ニュースカイ |
| | 新着 | | | |

■委員会報告

(青少年奉仕担当 宮川義行)



熊本東南ローターアクトクラブの今後の活動予定について

■出席報告 (出席・プログラム担当 松田和成)

| 月日 | 会員数 | 出席者数 | MU | 修正出席者数 | 出席率 (%) |
|--------|------------|------|----|--------|---------|
| 01月12日 | 44 (免2) 42 | 30 | 3 | 33 | 78.57 |
| 01月26日 | 44 (免5) 39 | 21 | | | 53.85 |

☆新入会

01月12日 片岡貞志

☆出席免除

01月12日 住江正治 島村徹男

01月26日 住江正治 島村徹男 古庄浩二 佐野 茂 志賀重人

☆欠席者

01月12日 (8名)

川崎直樹 小野川善久 堤 勝也 武末直大 山本浩之 山坂哲生 吉永陽三 矢野敬之

■職業奉仕関連卓話卓話

(地区職業奉仕委員長 古田哲朗)



本日の内容

- はじめに
- 職業奉仕Webセミナー (2021~2022年度) の振り返り
 - どうしたら、継続できるのか
 - なぜ、経営理念を中心にしたのか
 - なぜ、同志をやることになったのか
 - なぜ、地区委員になってしまったのか
- ついでに、国際大会に参加してよかったこと
 - 発表があった経営理念7人組について
 - 東京ロータリーの会長の経営理念2人組について
 - 来年度の議案について
- 最後に

ロータリー-職業奉仕

2022.1.18
金曜夜

はじめに

- 202201地区の過去の職業奉仕セミナー
- 2018~2019 (9年度: 職業奉仕を先決)
- 2019~2020 (10年度: 第一歩は何をやっていったか)
 - 「ロータリーとして高い目標を掲げ、経営理念の確立が目的ではないか」ということを言うこと」(古田一平)が目標
- 2020~2021 (11年度: 職業奉仕とは何か (職業奉仕の意義とは))
 - 職業奉仕とは自分からやるべきこと
- 2021 (2021)~2022 (22年度): 職業奉仕をどうアップ
 - 一歩前進したように感じているからやるべき

職業奉仕Webセミナーの振り返り

【どうしたら、継続できるのか】
「職業奉仕Webセミナー」のバナーをクリックすると開きます。

職業奉仕Webセミナーの振り返り

【なぜ、経営理念を中心にしたのか】
本下地区委員長、前年の水戸第一への講演で経営理念に興味を抱くことから

職業奉仕Webセミナーの振り返り

【なぜ、同志をやることになったのか】
地区委員として、職業奉仕部門の委員となっているからと思われ、

【なぜ、地区委員になってしまったのか】
熊本県ロータリーの会長の「経営者の志願」が、職業奉仕部門のときで、同業種として声をかけてくれて地区委員になった。

「YESしかない」の実行

職業奉仕Webセミナーの振り返り

【ついでに、国際大会に参加してよかったこと】
今回の職業奉仕Webセミナーにおいて、本下第一バスターミナルにお話ししたとき、ものごとを覚えてもらったので、少し**良い発表**で発表ができました。

職業奉仕Webセミナーの振り返り

【発表があった経営理念7人組について】 2人組: 高天原の和田委員長

職業奉仕Webセミナーの振り返り

【発表があった経営理念7人組について】 4人組: 宇佐の和田委員長

職業奉仕Webセミナーの振り返り

【どうしたら、継続できるのか】
【2720】で検索すると、2720地区のWebが出てくる。

職業奉仕Webセミナーの振り返り

【どうしたら、継続できるのか】
ちなみに、私が同志をしています。

職業奉仕Webセミナーの振り返り

【なぜ、経営理念を中心にしたのか】
今回のロータリー
「企業の繁栄と職業奉仕へロータリアンの情熱を磨き合おう」と決定し、経営理念の発表会を開きました。

↓

2720地区の会員に対して、経営理念のアンケートをとったところ、**160社**を超える経営理念が寄せられました。

職業奉仕Webセミナーの振り返り

【ついでに、国際大会に参加してよかったこと】
2018年6月のロンドン (オランダ) の国際大会が初めて
→ 良かったこと: 本下との仕事でなくても、ロータリーの関係でもあれば、事務局のみなさん**の助けを借りて**、1週間程のAAAができた

→ 良かったこと: **地区サイト**で、自分が紹介したミーティングに来ることができて、**感謝して良かった**と感じました」と感謝した

→ 良かったこと: 古田一平、バスターミナルとこの**業績**を中心にロータリー活動されている2720地区の情熱と知りあいた。

→ 良かったこと: **子どもの成長**に良い影響となった

→ 良かったこと: **小嶋さんの活躍**が感動した

職業奉仕Webセミナーの振り返り

【発表があった経営理念7人組について】 1人組: 宇佐の和田委員長

職業奉仕Webセミナーの振り返り

【発表があった経営理念7人組について】 3人組: 熊本県の山下委員長

職業奉仕Webセミナーの振り返り

【発表があった経営理念7人組について】 5人組: 熊本の山下委員長

職業奉仕WEBセミナーの振り返り



職業奉仕WEBセミナーの振り返り



職業奉仕WEBセミナーの振り返り

- 【東海ロータリー経営理念2人件について】
 株式会社ユーテックス 取締役
 【企業使命】 自己成長と人材の育成を両立し地域に貢献する
 【企業行動指針】 1 私事は誠意で行います。
 2 私事は誠意を尽くします。
 3 私事は誠意を尽くします。
 4 私事は誠意を尽くします。
 5 私事は誠意を尽くします。
 【経営理念】 1 お客様と向き合い、安心感のかけがえのない企業
 2 地域社会から信頼されたい企業
 【行動指針】 安全、整備、清潔、実行力、寛量、機敏

職業奉仕WEBセミナーの振り返り

- 【東海ロータリー経営理念2人件について】
 社会福祉法人 瀬谷会
 【経営理念】
 散らされた人々を集め、ひとりも失われぬようにする。
 私は、退職後も引き続き協会のボランティアとして福祉活動をしています。
 少子高齢化社会は、これまで経験したことのない日本ですから、コースも多岐に、頑張っています。
 従ってボランティアの参加は福祉に必須だからです。

職業奉仕WEBセミナーの振り返り



職業奉仕WEBセミナーの振り返り

- 【水戸光一氏による「ロータリー」の講演】『これから地域は？私たちの仕事は？』
 ※時代は急速に変化し、価値観も大きく異なる時代である
 ※少子高齢化社会、地方創生、環境問題、SDGs
 ※目的は「誰か」ではなく「社会」のため
 ※地域に貢献するだけでなく、企業にも
 ※日本の地域課題への解決に貢献
 ※リモートワークで人のつながり
 ※地域社会の活性化
 ※多岐にわたる活動
 ※21世紀のロータリーは、多岐にわたる活動
 ※ロータリーは地域のコミュニティとして、地域の課題解決に貢献する

最後に

36の社を経る経営理念をまとめたことで、ロータリーがそれぞれの理念の中心で、職業奉仕を営んでいることを確認できた。
 また、時代の変化（人生100年時代）によって、経営理念を再考する必要が出てきた。
 さらに、人が変わらなければならない。ロータリーが地域コミュニティとしての重要な役割を担うチャンスが到来している。ロータリーは地域で不可欠の存在を確立すべく、各地の課題解決に一層注力していくべきである。
 ると思っております。ロータリーの経営理念って何なのだろう、セミナー資料を拝見していると、一層疑問に思われるものがあつていました。

最後に

- 【ロータリーの目的】→すべては経営理念
 ロータリーの目的は、世界から事業の発展として「社会の発展」を奨励し、これを目的とする。具体的には、次の各点を奨励することにある。
 第1 知り合いの集まることによる事業の発展すること
 第2 職業上の成功、管理職を受け、経営の仕事すべてを担うことと認識し、社会に奉仕する職能としてロータリアンとしての職業を果敢とすること
 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、社会の発展を奨励すること
 第4 社会の理念で育った職業人が、世界のネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を促進すること

最後に

- 【四つのテスト】→すべては経営理念
 言行はこれに準拠してから
 1、高潔かどうか
 2、みんなに公平か
 3、利益と名誉を求めずか
 4、みんなのためになるかどうか

■点鐘

(編集者 沼田敏雄)

人の力とつながり：2022-23 会長テーマのロゴ
投稿日：1月24, 2022

「イマジン ロータリー」。これが、ジェニファー・ジョーンズ会長エレクトが、2022年1月20日（木）に発表した2022-23年度会長テーマです。ジョーンズ氏は、大きな夢を抱き、行動を起こすことをロータリー会員に求めています。「私たちには皆、夢があります。しかし、その実現のために行動するかどうかを決めるのは私たちです。想像してください、私たちがベストを尽くせる世界を。私たちは毎朝目覚めるとき、その世界に変化をもたらせると知っています」

このテーマロゴと2023年国際大会のロゴは、オーストラリア先住民族の現代アート、デザイン、コミュニケーションを専門とするアーティストでグラフィックデザイナーのリキ・サラム氏（Riki

Salam）によってデザインされました。ケアンズの Yidindji の地で生まれ育ったサラム氏は、父方が Muralag, Kala Lagaw Ya, Meriam Mer, Kuku Yalanji の人びと、母方がニュージーランド南部の島に住む Ngai Tahu の人びととのつながりを持っています。このロゴは、オーストラリア先住民族の現代アート、デザイン、コミュニケーションを専門とするアーティストでグラフィックデザイナーのリキ・サラム氏（Riki Salam）によってデザインされました。サラム氏は、メルボルンで開催される2023年ロータリー国際大会のロゴも手がけており、二つのロゴを視覚的な共通言語で結び付けています。

ロゴに込められた意味

このロゴには、各所に深い意味が込められています。例えば、先住民の文化で「円」は互いにつながっていることを意味しており、7つの点は「人」をあらわすと同時に、ロータリーの七つの重点分野を表しています。

丸と点を一緒にすると、航路を示す星、つまり私たちの道しるべになります。その下の太い線は、いわゆる「掘り出し棒」で、力仕事をするときに使うものです。行動を起こす人たちであるロータリー会員にとって、物事を成し遂げるための道具を表しています。

色について

緑、紫、白の3色は、必ずしもアボリジニの文化とは関係がありません。ジェニファー・ジョーンズ会長エレクトは、公式行事で服装を整える際、テーマジャケットではなく、これらの色（一つでも、三つすべてでも可能）を使うよう2022-23年度ガバナーに要請しています。「多様性、公平さ、インクルージョンを強調していくにあたり、私たち一人ひとりが着るもので自分を表現しながら、つながりを持てるようにしたかった」とジョーンズ氏は説明します。

色の解釈は何通りかあります。例えば、紫は「ポリオ根絶」、緑は新たに加わった重点分野の「環境」、そして白は私たちの中核的使命である「平和」を表しています。また、この3色を合わせると、女性参政権運動「サフラジェット」の色になります。これは、ジョーンズ氏が初の女性 RI 会長となることから、さりげなくその歴史に触れているのです。

ロータリーボイスより



私が所属するアジスアババ・セントラル・メラ・ロータリークラブは現在、エチオピア南部の村々に24の井戸を建設するプロジェクトを実施しています。私たちは、現地で集めた情報やデータを活用して、地域社会のニーズとその解決策を特定しました。



プロジェクトの目標は、村人たちが安全な水にアクセスできるようにし、生活の質を高めることです。近くに安全な水がないために、村人たちは長距離を歩いて水汲みをしなければなりません。しかも、その水は汚染されており、感染症の原因となることが少なくありません。

ニーズ調査のプロセス

どのロータリープロジェクトも、現地の不足やニーズを調べることから始まります。その方法として多いのは、現地で活動する非政府組織 (NGO)、自治体、住民からニーズについて聞くことです。

米国のロータリークラブや地元・海外の団体と協力している私たちのプロジェクトでは、地元 NGO から地域社会のニーズについて学んだほか、現地の村人や関係者から話を聞きました。現地で女性や子どもが水汲みのために3時間も歩いている現状を目にしました。子どもたちは、水汲みのために、就学や課外活動、家事手伝いの時間が奪われていたのです。

村人たちはさらに、安全な水が近くで入手できない問題について話しました。これはエチオピアの多くの村が抱える問題です。また、適切な衛生習慣や知識のない村人が多く、そのために下痢や腸チフスといった水系感染症が多いこと、さらに、近くで医療サービスを受けられないために医療費の高い病院まで遠路を移動しなければならないといったこともわかりました。

これらはすべて、現地の問題を把握するために重要な情報です。

データの収集

データの収集方法として、まず「観察」があります。私たちの場合、例えば、給水所を訪れて、どのように水汲みが行われているかを観察し、住民たちに同行して水汲みにどのくらいの時間がかかっているのかを調べました。水運びを手伝うこともあります。水の入った容器はとても重いのです。もう一つの方法は「インタビュー」です。地域社会に変化をもたらすためにカギを握っているのは誰か、と尋ねると、多くの場合、「水汲みをする女性」という答えが返ってきます。

さまざまな視点を知るために、インタビューの相手は慎重に選ぶ必要があります。最も影響力のある人、人びとから好かれている人、管理機関の責任者、地域社会のさまざまなグループの人などです。私たちの場合、国際ロータリーから提供された地域社会調査の資料にある質問を用いました。それで大半の答えを得ることができ、質問に修正を入れる必要がある場合もあります。

さまざまな協力団体と関係者にも、プロジェクトの計画について伝えるようにしています。例えば、長期的にプロジェクトを継続させる上で、水の分野における経験と知識が豊富な NGO との協力が必要となります。観察と調査も大切ですが、専門家からの助言や情報を欠かすことはできません。

私たちのクラブは、これまで実施した水プロジェクトについて、エチオピア国内のほかのロータリークラブにも情報を提供しています。その中には、プロジェクトを成功させる方法を知りたいと、私たちに連絡してきたクラブもあります。

証拠を集めてインパクトを評価

私たちは、2年前にもエチオピアのほかに地域で水プロジェクトを実施しました。

プロジェクト完了の数カ月後に現場を訪ねると、井戸は地域社会の人びとによって適切に使われていました。子どもたちは、長距離の水汲みが不要になったために学校を休まなくてよくなったことや、長い列で待たなくてよくなったことを喜んでいました。さらに、現地の保健関係者の話によると、以前は二日に一度は誰かが病気になっていましたが、今では水を介した感染症で病気になった人の話を聞かなくなったそうです。

これが、その地域に私たちがもたらしたインパクトです。私たちは、蛇口から安全な水が出てくるのをこの目で確認し、それを実際に飲みました。インパクトを目にすることで、すべての努力が報われたと感じます。これこそがロータリーの素晴らしさであり、私たちが「世界を変える行動人」である理由です。

【寄稿者プロフィール】



サムソン・テスファイエ・ウォルデンセ
(Samson Tesfaye Woldetensaie)

コミュニケーション、イベント企画、プロジェクト調整の資格をもち、これらの分野で20年近い経験をもつ。民間組織、国際組織、国連での勤務経験に加え、自ら団体を経営した経験をもつ。現在は世界銀行グループのコンサルタント。2002年にロータリー

クターとしてロータリーにかかわり始め、2008年にアジスアババ・セントラル・メラ・ロータリークラブの創立会長となる。2015年にアフリカ連合と国連アフリカ経済委員会

ロータリーボイスより

